

田尻だより

平成 22 年

1月 号

Vol. 82

次の田尻便りは
2月1日発行予定です

新年明けましておめでとうございます。

田尻だよりも早8年目の春を迎えようかというところ。この厳しい不況のもと、私達が変わらぬ精神で米作りができるのは、ひとえに皆様の変わらぬご支援のおかげでございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年末から三日まで、田尻は大荒れの天気が続き、連日吹雪に見舞われました。



外で遊べないため、子供たちが片付けた先からあちこちでちらかし、全く進まない犬ぞうじ。

〔最初の1年〕

田尻だよりを書く時、

本文は極力自分のことを書かないという自分ルールでこれまで書いてきました。今年は何も振り返りの年として、少し触れたいと思います。私がお嫁に来たのが平成14年の4月。田尻だよりが始まる丁度一年前でした。和歌山から宮城に嫁に来て、右も左も分るはずもなく、まさに夫だけが頼りの最初の一年でした。

私は「農業」が好きだったの、当初はお米を売ることに全く興味がなく、夫と一緒に田んぼや牛舎に行っては、農作業をして過ごしていました。

方言も風習も違う、友達も土地勘もない、実家にも減多めったに戻れない私にとって、夫の隣は唯一の居場所であり、田んぼや牛舎は「母屋」という「他人の中」から逃げ込める、安息な避難場所なのでした。

この天候なら空いているはず！と決行した初詣は功を奏し、



吹雪の中で撮った写真は初詣なのか何なのか分からないくらい真白

元旦の朝いちに済ませることができたのでした。

未 暦 ~こめごよみ~

12月1日、4日、15日、18日、22日
米検査をしました。



(農閑期のため、農作業はお休みです)

嫁日記

あけましておめでとうございます。今年も大掃除とおじいさんの年賀状印刷とお年始の準備にかまけて、自分の年賀状が書けませんでした…。ぬぬ、来年こそは！

さて、年末になると私も毎年「実家に帰るの？」と聞かれます。しかし今年からは

聞かないでいただきたい。農家の長男(または主人)は外で年越してはいけません。帰りたいけど駄目なのです。

また、元旦の朝には神様にお神酒とお膳を上げ、家に帰って来る親族を準備万端迎えなくてはなりません。そして嫁は、すさんだ心で、盆と正月が来なければ良いのにと…思っているのです。

絵と文 / 小野寺ひかる